

テーマ 虫・植物

植物や虫などを集めたり観察したりするのが好きな子も多い一方で、虫が苦手で戸外で遊ぶのを嫌がる子もいました。

観察や飼育を通して自然の不思議さや面白さに気付いたり、身近に感じたりしながら、生き物を大切にする気持ちが育ってほしいという願いを込めてこのテーマにしました。



アゲハの飼育



園庭にあるみかんの木で生まれたアゲハの幼虫を保育者が見つかり、育てることになりました。初めは3匹でしたが、園庭に行く度に「青虫いるかも」とみかんの葉から幼虫を見つけ、最終的に6匹飼育しました。全ての幼虫に名前を付け、「葉っぱ食べてる。」「なんか出てきた。うんちだ。」と観察をしたり、保育者と一緒にエサの交換や虫カゴの掃除をしたり愛着を持って飼育しました。「上に登ってるよ。」「動かなくなったよ。」と異変に気づき、不思議そうに「ここから出てくるの?」と、毎日蛹の様子を観察しました。蝶になって出てくると、放す時には寂しさも見せながら喜んでいました。1匹は羽が開かず、飛べないことに気が付くと、最後までカゴで飼育しました。



クラスでの飼育や観察、戸外での虫探しから虫への関心がさらに高まり、園内活動のお店屋さんごっこでは“虫屋さん”をしました。他のクラスの子どもたちにも、触れる楽しさを感じてほしくて、虫捕りの疑似体験ができるお店にしました。飼育に加えて、絵本や図鑑の情報を参考にし「ちょうちょは花に止まる」「クワガタは木にいる」と、虫が集まる植物や土などを子どもたちが考えて用意しました。

活動の振り返り

アゲハの飼育をして、羽が広がらない蝶がいることを知り、「飛べないとどうなっちゃうの?」「このまま死んじゃうの?」と生命の儚さや尊さに気付いたり、次に触る虫も丁寧に触ろうとしたりする姿が見られました。

虫が苦手だった子も観察をするようになり、絵本や紙芝居、手遊び、ゲームなど虫関連のものにも多く触れ、名前を覚えたり「この虫は〇〇っていう国に住んでるんだって」と他のことを考えるきっかけになったりもしていました。